

ニック)から「在宅医療について」のご講演をいただきました。前半のミニシンポジウムでは、聖隷浜松病院の田中 篤太郎先生による座長のもと、「静岡県西部広域脳卒中地域連携パスの現況と課題」について、浜松市内の多職種の方々(医師・看護師・セラピスト・相談室)にご討論いただきました。後半のミニシンポジウムは、浜松北病院の竹内和彦先生による座長のもと、「在宅医療：多職種連携について語ろう」を、開業医、退院調整看護師、訪問看護師、ケアマネジャーの方々にご発表いただきました。一般演題では、チーム医療、地域連携・地域連携パス、感染・ケア、周術期、退院支援・地域包括ケアといったセッションでご口演いただくとともに、クリティカルパス展示ではフロア・ディスカッションによる意見交換が行われました。

2025年に向け「地域包括ケアシステム」が動き出そうとしている現況下、医療マネジメントという領域も、病院内から地域への「アウトリーチ」が期待されるという共通認識が得られた集会となりました。関係者の皆様方には深く感謝申し上げます。

### 第13回青森支部学術集会

学術集会会長：十和田市立中央病院院長 丹野弘晃



会場風景

2014年9月6日(土)、ホテル青森にて第13回日本医療マネジメント学会青森支部学術集会を開催いたしました。「医療の質と経営の質をマネジメントする」をメインテーマに、特別講演2題、一般演題20題の発表が行われ、県内各地から182名の御参加をいただきました。

特別講演Ⅰでは、NPO法人がんと暮らしを考える会の賢見卓也理事長に「がん患者の社会的な苦痛軽減の取組みと多職種連携」と題した御講演を、特別講演Ⅱでは、聖路加国際病院の福井次矢院長に「医療の質を測り改善する－聖路加国際病院の経験と国内外の動向－」と題した御講演をしていただきました。

一般演題では「医療安全・看護業務」「患者サービス・地域医療連携」「病院経営・医療の質」「教育」「災害対応」について発表が行われ、活発な討論や情報交換がなされました。

最後に、今回の学術集会運営にあたり、ご協力をいただいた関係各位の皆様には心より感謝を申し上げ、開催の報告と致します。

### 第13回九州・山口連合大会

会長：国立病院機構鹿児島医療センター病院長 花田修一



会場風景

2014年9月26日(金)、27日(土)の両日、「病院・病床機能の分化と地域医療連携」をメインテーマに、第13回九州・山口連合大会を、かごしま県民交

流センターにおいて開催しました。今年は8月、9月と雨の多い日が続きましたが、幸い、学会当日は桜島の降灰はあったものの、天候には比較的恵まれ、九州・山口各県を中心に1,300名を越える参加者がありました(今回は広島県からも演題発表をいただきました)。演題数は285題(口演257題、クリティカルパス展示28題)で、7会場に分かれて熱心な発表・討議が行われました。

特別講演1題、教育講演4題、シンポジウム4題、教育セミナー2題、フリートークセッション1題、医療安全講習会等により、今回のテーマに沿った講演やシンポジウムに加え、地域連携、医療安全、チーム医療、クリティカルパス、医科歯科連携のほか、診療記録の精度、看護現場でのパートナーシップ・ナーシング・システム®や災害時における感染症対策等についても講演をお願いすることができました。招待講演は志學館大学教授 原口 泉先生に「明治維新と医学」というテーマでお話いただきました。原口先生は薩摩の近世史を専門としておられ、NHKの明治維新関連の大河ドラマの時代考証も担当されており、いろんな話題で1時間があっという間に終わった感がありました。宮崎久義理事長には、基調講演で学会全体の動きだけでなく、九州・山口連合大会の歩みも説明頂き参加者一同本連合大会の意味について理解が深まったことと思います。

一般演題の会場でも熱心な討議が行われ、一部の会場では座ることができない参加者もみられました。主催者として申し訳ないことだったと思います。本学会は、国立病院機構鹿児島医療センター職員のみでなく、鹿児島県内の基幹病院の院長・看護部長に参加



会場風景